


ふりがな	かわらぐちぼうじゅういせき	
遺跡名	河原口坊中遺跡第2次調査 (海老名市No.52遺跡)	
調査期間	20061117～20070228 20070816～20080331 20080901～20090331 20090901～20100215 20100801～20110430	
所在地	海老名市河原口	
時代	弥生 古墳 奈良・平安 中世 近世	

更新日:平成25年8月1日

調査原因	神奈川県厚木土木事務所による相模川河川改修事業・自転車道整備事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置	海老名市西部、JR 相模線・小田急小田原線の厚木駅の北西約1kmに位置する。相模川中流域左岸で、小鮎川・中津川が相模川に合流する三川合流地点の対岸にあたる。
主な調査成果	<p>本調査は平成18年度から平成23年度まで断続的にですが、毎年度発掘調査を実施してきました。この調査で発見された遺構・遺物の主な時代は、弥生時代中期から古墳時代前期と奈良・平安時代から中世および近世があります。</p> <p>現在は平成22～23年度に発掘した弥生時代の河道跡の出土品整理作業を行っています。河道跡から出土した遺物には土器や石器のほか木製品や樹皮製編み物、骨角器などがあり、これらで作られた農具、工具、漁労具、紡織具、祭祀具など弥生時代の集落で使われていた諸々の道具が明らかになっています。</p> <p>写真3は、河道跡から出土した木製の臼と杵です。稲粳などを脱穀するのに使われました。写真4は樹皮などの素材で編まれた籠(かご)が出土した状態の写真です。写真5は、弥生土器の壺で、在来系の文様と外来系の文様が施文されている折衷型式の壺、写真6は輪積み痕を装飾的に残している平底の甕です。</p>



▲ 1. 河原口坊中遺跡 遠景(北から撮影)



▲ 2. 平成23年度調査箇所(南東から撮影)



▲ 3. 出土木製品 臼と杵(弥生時代)



▲ 4. 編み物 カゴ 出土状況



▲ 5. 復元した弥生土器 壺



▲ 6. 復元した弥生土器 甕